

環境首都100万本植樹プロジェクト 概要

平成20年7月、北九州市は、国から環境モデル都市に選定されました。環境モデル都市第1号となる事業として、同年10月4日、「環境首都100万本植樹プロジェクト」をスタートしました。

本プロジェクトは、響灘緑の回廊創成事業などの既存事業に加え、企業の自主的な植樹活動や、記念日に家庭で植樹する「わたし記念日」などを実施し、2022年までの今後15年間に、100万本の緑を市内に新たに増やそうとするものです。

これにより、およそ700世帯分のCO₂削減（約3,700t/年）が図られることとなります。

1 プロジェクトの内容

(1) プロジェクト名称

環境首都100万本植樹プロジェクト

（愛称 まちの森～みんなで植えれば100万本！）

(2) 目標

2022年までの15年間に100万本を市内に新たに植樹

(3) 参加主体及び取組概要

市民の主な取組

■ 「わたし記念日」植樹

市が準備する「わたし記念日～記念植樹プレゼント」を利用して、出生、入学などの記念日に、自宅などで記念植樹を行う。

（年間植樹予定数5千本、15年間植樹予定数10万本）

■ 市民森づくり運動への参加

「響灘緑の回廊事業」などまとまった緑育成の場所で、市民や市民団体が一緒になって植樹を行う。

（05年度～11年度植樹数6万6千本、15年間植樹予定数約30万本）

■ どんぐり銀行への参加

市内小学校が製作したどんぐりの苗ポットを、市民森づくり運動による植樹会までの間育成し、その苗を植樹会で植樹する。



市民森づくり運動

企業の主な取組

- 企業植樹運動
事業所、工場の緑化促進を計画的に推進する。
(15年間植樹予定数30万本)
- 市民森づくり運動への協力
前述の市民森づくり運動への企業市民としての従業員参加を推進する。
- どんぐり銀行への参加
市内小学校で製作したどんぐりの苗ポットを、市民森づくり運動による植樹会までの間育成する。



企業の取り組み。写真はひびき灘開発(株)の植樹会。

市民団体、NPO、小学校の主な取組

- 市民森づくり運動への参加
当運動に、学校教育、団体活動の一環として積極的に参加する。
- どんぐり銀行への参加
市内の既存の木からどんぐりを集め、苗ポットを製作する。



市民団体の取り組み。写真は合馬むらづくり協議会の植樹会。

市の主な取組

- 公共用地、公共事業での植樹促進
街路、公園、学校等街中での公共用地の「みどり化」を促進し、新規公共事業では、緑をふんだんに取り入れたものとなるよう努める。
(15年間植樹予定数30万本)

2 プロジェクトの推進母体

市民団体、企業、学校、行政から構成する「みどりネット」
(みんなで どこかで りよっかネットワーク)

3 そのほか

- ・ 希望があれば、団体、企業の植樹に関する取り組みをまちの森ホームページで紹介しています。
- ・ みどりネットへの参加は無料です。



まちの森ホームページ
www.machinomori.com

みどりネット事務局

環境局環境未来都市推進室自然共生係 (担当: 生野、山口) TEL 093-582-2239